

拍子木を全自主防災部に配付しました！

先進的な防災活動の内容

錦林東山学区自主防災会では、地域のきずなを深め安心安全な町にするため、昔ながらの「火の用心」を手本とした防火見回り活動の定着を目標にして、全自主防災部に拍子木と夜間の誘導灯を配付しました。

当初は、消防署から借用した拍子木で防火見回りを行っていましたが、参加状況が思わしくなく、何か打開策はないものか

と本部役員が知恵を絞りました。そこで、平成21年度に全自主防災部に対して拍子木を配付し、それぞれが持参して参加していただいたところ、前年の2倍の参加者となりました。

拍子木の配付により、多くの学区民に夜間の現状と、放火されない環境づくりの大切さを知っていただき、各自主防災部独自の見回りを始めるきっかけとなりました。



特記事項

- 当初の自主防災会予算では、全自主防災部に拍子木を配付するのが困難な状況でした。そこで、拍子木用の角型のかし材と紐を個別に購入し、完成させたことから、購入価格を低価に抑えることができ、夜間の誘導灯を追加配付することができました。
- 各自主防災部には、過去に行われていた自主防災部による防火見回り活動とともに、散歩のように気軽に行うことで、参加者の健康増進と放火されない環境づくりに役立つものであることを、本部役員から強調して紹介していただきました。
- 平成21年度の見回り活動実施後は、週末の土曜日の夕方に、拍子木を打ち鳴らして見回る活動が見られるようになり、本部役員一同大変喜んでいます。

足腰の強い自主防災会を目指して

先進的な防災活動の内容

朱三自主防災会では、平成19年度から始まった住宅用火災警報器共同購入の啓発方法を役員会で協議しました。防災指導責任者と役員が協議した結果、住宅用火災警報器の概要、機種選定の交渉経過などを掲載した「朱三防災だより」を発行することになりました。更に自主防災部の皆さんと直接お話ができる場を設けようと、同年度の総会で、9ブロックから構成される同自主防災会が、ブロックごとに輪番制で防火行事を実施していくことを可決しました。

この取組により平成19年度の住宅用火災警報器の共同購入は、769世帯、1,784個の購入がありました。また、天井に取り付けられた住宅用火災警報器の作動点検を行うには手が届かないので、点検を容易にするために「火の用心」と書いた点検用の「ひも付きの札」を作成し、希望者宅に行って取り付けました。この「ひも付きの札」は、札の標語、字体、色調などを試行錯誤しながら、完成させたことから利便性が良く好評で、関係者一同手応えを感じています。

火災予防に
関する取組



特記事項

- 「朱三防災だより」を発行するに当たり、役員会で協議した結果、月1回の発行を目指し、紙面の構成、写真及び記事の提供などを、担当していただく署員の方をお願いしています。
- 従前から同自主防災会の活動は活発である反面、自主防災部は少し低調でしたが、総会において輪番制で防火行事を実施することが決まったため、自主防災部長の考え方が変わっていくのを肌で感じ取ることができました。

学区全体で防火・防災見回り隊を編成

先進的な防災活動の内容

大塚学区自主防災会では、学区内の「放火」撲滅と、地元住民の防火・防災意識高揚等を目的として、「防火・防災見回り隊」を編成しています。

自治連合会を始めとする各種団体等との連携協力により、地域の様々な団体が集まって、学区全域をくまなくパトロールを行っています。

「見回り隊」の活動は、毎月20日に行うもので、昼夜を問わず学区内を巡回すること

により、「放火」の撲滅をはじめ、火災の予防や犯罪の防止、交通安全や青少年の健全育成など、学区全体の課題を共有することが可能となり、地域住民のきずなが更に強まるという良好な結果が生まれました。

今後は、この「見回り隊」が生み出す「きずな」を大切に育て、万一の災害発生に際しても学区の全力で即応できる体制を確立しようと意欲的です。



特記事項

- 「防火見回り活動」は、平成19年に「防火見回りたすきリレー」から、引き続き自主防災会と消防分団が協力して、実施しているものです。
- 大塚学区では、各種団体に呼び掛けて全学区で取り組むとともに、町内・自主防災部単位の身近な地域でも、無火災推進日の実施事項として取り組んでいます。

高齢者世帯に住警器と安心を取り付けます

先進的な防災活動の内容

鏡山学区自主防災会は、市内で最も早く活動を開始した自主防災組織です。昭和56年7月発足以来、常に他都市等の先進的な活動を取り入れるとともに、きめ細やかな活動で、地域住民と密着した防災活動を行っています。

地域の隅々にまで防災の意識を浸透させるため、年に一度の「学区防災訓練」のほかに年間8回の「ブロック訓練」を欠かさず行い、ブロックごとに備える防災器材の整備点

検や防火見回り活動の実施など、活動の中心を担う役員さんは年中大忙しです。

今は、住宅用火災警報器の普及は地域の重要課題としてとらえ、全世帯に設置を推奨しているところですが、「購入はしたが、高いところの取付けは大変で…」とおっしゃる高齢者の世帯には、本部役員さんと顔見知りの防災部長さんが「ペア訪問」して設置工事をサービスし、各戸に「住警器」と「安心」を取り付けています。

火災予防に
関する取組



自主防災会本部役員による
住宅用火災警報器設置工事



特記事項

- 鏡山学区自主防災会では、上に紹介したとおり、年間60回近くの防災活動を実施しており、参加者は2,900名近くとなります。
- 担当している消防署員さんからは、「会長をはじめ本部役員とブロック長との緊密な連携によって、防災が学区全体に浸透している。」と鏡山学区自主防災会の感想を述べていただきました。

防火見回り活動を通じて地域事情の把握

先進的な防災活動の内容

弘道学区自主防災会では、弘道消防分団と合同で、昨年4回の防火見回り活動を実施しました。

大きな地震が発生した場合、家屋やブロック塀等の倒壊、道路の隆起・陥没によって通行することができなくなることも考えられます。避難路や町内が所有している消火器の位置等は、防災マップに記載していますが、防災マップは一度作成したら完了というものではありません。新たな情報があれば、それを防災マップに記載し、常に最

新情報を保つメンテナンス作業が必要となります。

防火見回り活動を通じて、多くの目で学区の隅々まで見ることで学区内の状況把握が行えます。昨年は、消火器の破裂事故を防ぐため、町内で所有しているすべての消火器本体と収納箱の確認も併せて実施し、異状は認められませんでした。

「安心安全の学区 弘道」を目指して、今後も色々な活動を実施していきます。



特記事項

- 現在、防火見回り活動は、自主防災会役員、自主防災部長、弘道消防分団が中心となって行っていますが、更にきめ細かな情報を得るには、一人でも多くの住民の方に参加してもらいたいと考えています。
- 防火見回り活動は、地域状況の把握と住民の意思疎通の両輪が養われるもので、この両輪がうまく機能すれば、いざというときに地域が一丸となり、目標としている災害に強い弘道学区になれると思います。今後も目標に向かって取り組んでいきます。

地域で協力 広げよう防災の輪

先進的な防災活動の内容

住吉学区自主防災会では、毎年、学区の各種団体の皆様と協力し、「事故防止・防災パレード」を実施しています。このパレードは年末の事故防止と防火防災を呼び掛けるため、学区の各種団体10団体と自主防災会とで共同開催しているもので、今年で45回目を迎えるまでにになりました。

パレードの準備段階から各種団体と何度も会合を重ね、パレードに使用するプラカードの標語を考えたり、パレードコースの安全確保について検討を重ねてきま

した。

パレード中は「がんばりや!」「気を付けるわ!」などの反応があり、大変に意義のあるパレードになりました。

学区の先輩方が築きあげた各種団体との協力関係を継続していくことが、地域防災力の向上につながるものと考えています。今後は、地域の協力関係を更に発展させ、「みんなの力で、みんなを守る!」をモットーに活動していきたいと考えています。

火災予防に
関する取組



特記事項

- 地域の防災について学区全体で取り組む体制が45年間継続しており、このような活動が成果を挙げ、学区防災訓練では各種団体が避難誘導、安全管理、炊き出しなどの役割を分担して行う体制が構築されました。
- 住吉学区では、最近大規模マンションが次々に建設され、住民同士の横のつながりが形成されにくい状況にありますが、このパレードでは幼稚園、小学校のPTAや中学校の地域委員らも積極的に参加されています。このパレードを通じて新旧住民が協力する体制が構築されています。